

# 教育支援部だより

今回のテーマは、「自閉症スペクトラムの特性と環境設定」についてです。本校職員の教室の工夫を写真とともに紹介していきます。

## 「自閉症スペクトラム(ASD)」とは・・・



知的障害を伴う自閉症から、高機能自閉症、アスペルガー症候群、さらに自閉性障害のない状態までを境界線を設けず、「連続体」(スペクトラム)としてとらえる考え方。

- 言語発達の遅れ
- 自分の好みの方法にこだわりがある
- 感覚過敏
- 集団活動が苦手
- 相手の気持ちが分からない
- 予定の変更が苦手
- 混乱しやすい
- 関わり方が一方的
- 常同行動(繰り返し行動をする)・・・などの特性があります。

## 「合理的配慮」ってなに？



障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものと定義されている。(文部科学省)

「他の子どもたちと同じスタートラインに立つために、すでにある環境や条件に対して、子どもの特性に合わせた「変化」を付けること」です。

参考：『図解 よくわかる発達障害の子どもたち』、学校での「合理的配慮」ハンドブック、文部科学省 HP  
「資料 神奈川 LD 協会 夏のセミナー2015」、「資料 移行支援(つなぎの支援)とその必要性について 葉丸 貴之」

子どもの特性や困りごと、学校生活上の場面や環境によって、必要となる配慮は異なるが、環境設定の工夫をすることで、子どもたちが学校で学びやすくなる！！



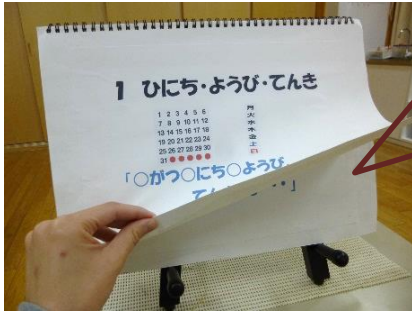
## 小学部の教室の工夫



実際の教室の一例を紹介します。  
いろいろな教室があります。  
児童生徒の実態に合わせて、教室環境を工夫しています。

### ☆小学部1年生の教室☆

児童の目線の位置には、予定や名前などを貼らないようにしている。注目してほしいときのみ、児童の目線の高さに貼るようにしている。  
余計な刺激を減らすための工夫をしている。



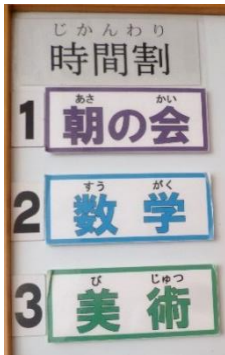
☆小学部5年生の教室☆  
朝の会の司会カードを使用して、学級のどの児童も、紙をめくりながら自分で司会ができるようにしている。



☆小学部3年生の教室☆  
興味や関心を引く玩具を置いている。玩具を使ってごっこ遊びをしたり、人との関わりを増やしたりしている。



## 中学部の教室の工夫



☆中学部の時間割カード☆  
中学部で統一したものを多くの学級が使用している。カードの文字の色と授業ファイルの色をそろえている。

☆中学部1年生の廊下☆  
一人になり、クールダウンできる場所を廊下で作っている。自分から「休憩したい」と言う生徒もいる。

☆重複学級の教室☆  
教室内に、生徒一人一人のかばんや上着を収納するスペースを作っている。危なくないように安全性に配慮している。



## 高等部の教室の工夫



☆重複学級の教室☆  
集中して課題に取り組めるようにするために、学習機の周りについたてを置いている。



個人のレターケースから、配布物を取り出したり、のりやはさみを必要なときに自分で持って行ったりできるように、置く場所を分かりやすくしている。

教師が子どもにしている言葉掛け等も、環境の一つです。  
子どもたちが安心した環境で生活が送れるように、実態に合わせた支援の工夫が大切です。